

上越市立春日小学校 学校運営協議会だより

平成29年6月9日 第21号

発行：春日小学校運営協議会

代表：板垣 勝雄

学校運営協議会6年目に向けて

春日小学校学校運営協議会会長 板垣勝雄

平成29年度第1回学校運営協議会において、会長に選出されました板垣勝雄です。古賀野前会長の後を受け、精一杯務めたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、会長就任に当たり、これまでの春日小学校運営協議会を振り返ってみました。

7年前、「みんなの学校をみんなでよくし、一緒になってよい子どもを育てましょう」と学校運営協議会立ち上げ準備会が発足しました。

1・2・3年目は上越市教育委員会の指定を受け、春日小学校はコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置しました。学校運営協議会は、校長の「ブレーン」であることを確認しました。それは「学校運営に関する政策集団」であり、また「パートナー」であり、「熟議」の場であります。また、学校支援本部は学校の様々な教育活動を支える実働組織です。学校支援本部は、青少年育成会議から2名、学校運営協議会から3名の合計5名のメンバーからなる組織として設置されました。学校全体や学年からの要望を受けてたくさんの活動を支援し、年々実績を重ね、成果を上げてきています。

4年目には、全国コミュニティ・スクール研究大会 in 上越が開催されました。これまでの活動を振り返って次のような成果が発表されました。

- ・学校運営協議会委員の責任ある建設的な意見が出されている。
- ・教職員のやる気につながっている。
- ・学校運営協議会（学校支援本部）と青少年育成会議の連携が効果的になり、協働（両輪）で推進されている。

5年目は、春日地域で育てたい青少年の姿として「春日中学校区小中一貫教育」で目指す姿の全体構想ができました。

子どもたちは日々成長・発達しています。6年目のこれからは、このことを意識しながら、今までの5年間で築かれた基盤、実績を継承し、さらに充実、発展させていきたいと思います。

成果が実際の子どもの姿で示されればいいなあと思います。

どうぞ、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



第1回学校運営協議会記録

5月20日（土）の体育祭終了後、恒例の第1回の学校運営協議会を開催しました。今回は、以下の5つの内容について協議をしました。

- (1) 学校運営協議会組織と規約について
- (2) 本年度の教育活動について
(グランドデザイン、春日中学校区小中一貫教育について)
- (3) コミュニティ・スクール指定※5年間の成果と課題について
- (4) 本年度各学年からの支援要望について
- (5) 夢・志チャレンジスクール事業について



☆(1)について

会 長	板垣 勝雄	副会長	山谷由美子
事務局長	瀧本 理恵	事務局次長	太田 一巳 小島 隆宏（教頭）
委 員	大竹美和子	角張 修	加藤 仁 小林 桂 小林 榮
	長谷川正幸	山崎美枝子	塚田 賢（校長）

☆(2)についての委員からの意見（概略）

- ・学校課題として「社会性をはぐくむ」を掲げてから、10年が過ぎようとしている。10年間の成果が子どもたちの姿に表れてきている。春日中学校区全体の子どもの姿がよくなってきていることが何より素晴らしい。
- ・今年度は、上越市教育委員会指定の小中一貫教育の取組の3年目を迎える学びや生活、健康づくりのスタンダードを作成し、全家庭に配付をした。また、今年度は小中一貫教育の取組の一つとして、中学校の先生（数学、英語）による小学校への乗り入れ授業も計画し、早速外国語活動で実践が行われている。保護者にも案内を出し、授業を参観してもらうこともよいことだと考える。
- ・小学校から中学校への進学に伴い、算数から数学となる。中学校1年生でのつまづきをなくすためにも、中学校の先生による乗り入れ授業は、とてもよいことだと思う。
- ・家庭学習について、中学校へ行くと、宿題の他にも「復習と予習」が必要となってくる。小学校の家庭での「自主学習」の内容についても、漢字や計算などの繰り返しの学習だけでなく、取り組める習慣を付けていくことが大事であると思う。
- ・小中一貫教育の重要性は十分に理解している。更に幼稚園や保育園との連携も考えていくことが大事だと思う。

☆(3)についての委員からの意見（概略）

- ・子どもたちは昨日よりも今日、今日よりも明日と日々成長している。子どもたちの成長や発達を意識し、これまでの5年間の財産を基盤として、さらに活動を発展させていきたい。

☆(4)についての委員からの意見（概略）

- ・地域の方、ボランティアの皆さんとの活動による成果がたくさんある。
- ・これまでの春日小学校の「のびやか活動（生活・総合的な学習）」の成果と課題をデータ化し、これまで取り組んできたものをさらに質を高め、ていくことが大切だと思う。

